

学校や研究団体などの指導的立場のリーダーに、育成方針や組織の特徴、そして女性美容師がオーナーになるための心構えは何かなどを聞く。

学校法人 阪神専修学園
ヘアラルト阪神理容美容専門学校
HAIRART
半田まゆみ 校長・理事長

プロフィール
1986年 関西学院大学法学部卒業
阪神理容専門学校卒業
1987年 美容師免許取得

●非常勤講師
神戸芸術工科大学
神戸山手短期大学
園田学園短期大学
大阪樟蔭女子大学

●著書
「丸刈り奮戦中」
「私らしくしあわせになる方法」
「髪のコードを読む」



自由な校風が自主性を育む

**大震災が
理事長就任のきっかけ**
——ヘアラルト阪神理容美容専門学校（以下ヘアラルトと表記）の大まかな歴史と半田まゆみ理事長の就任経緯をまず教えてください。

半田まゆみ校長・理事長（以下半田）——昭和28年に私の母方の祖父である阪口萬太郎が創立した学校が本校の前身です。尼崎市内に複数の理容店を持つ理容師でした。2代目は母の配偶者、つまり私の父親である半田健三が務めていましたが、不幸にも95年の阪神淡路大震災で亡くなってしまいました。当時、私は美容師免許を取得していましたが、大学卒業後は美容関連の仕事ではなく、複数の大学で非常勤講師なども兼任しており、直接、学校運営には携わっていませんでした。しかし父の急死により急遽、後を継いで理事長に、というのが就任の経緯です。

——震災があったのは1月でしたが、たしかその1月からもう理事長として活動されていたのですか。

たんですよ。

半田——そうですね。あのときはとにかく世間的にもドタバタで、手伝えること、できることは全部やりました。学生の生存確認から学校の被害状況の把握などですね。その活動の中で、やはり後を継ぐのは私しかないだろう、という流れでした。

校名「ヘアラルト」に 込めた思いとは

——（2014年2月）現在の学生数と男女比を教えてください。

半田——昼間部が104名で、そのうち理容科は14名、美容科が90名。男女比は、男性が35%、女性が65%。通信も男女比は同程度で、合計112名。トータル216名です。

——校名の「ヘアラルト」は英語表記で「HAIRART」で、ヘアとアートが合体した造語なのだろうと想像できますが、この名称に込めた思いとはどのようなものですか。

対等だけど 立場の違いはある

——その理念を具体的にどのよう
うにカリキュラムに落とし込
んだのですか。

半田——現在は私だけではなく教職員全員でそうした発想を共有しているのですが、その理念を追求してはいますが、もともと象徴しているのはやはり私自身が担当している「発想論」という授業ですね。その中で私はモノの考え方を紹介しています。落ち込んだときはどうするか、失敗したときはどうするか、またチャンスをつかむにはどうすべきか、などですね。人間だから失敗はある。でもくじけてるばかりじゃ前進しない。そこからどう挽回するか。そうした頭の切り替え方も教えています。ようは考え方を深めること、視野を広げること、それが自由な発想や生き方につながるんだと伝えているわけです。



半田理事長自ら教壇に立ち、自由な発想と自主性、それに伴う義務などの大切さを伝えている

——ある意味、人生論だと思えますが、半田理事長の場合、髪型を含めた外見によってその人生観は説得力が増しますね。ああ、自由で良いんだなあと思えます。

半田——そうですね。それはあるかもしれませんが。もともとこの髪型は異文化交流の中で行なったことで、ネイティブアメリカン（編集部注・通称インディアン）に「女性の命」である神聖な髪を捧げるという目的でカナダで実施したんですが、今は神戸三宮の卒業生の美容室で切ってもらっています。

半田——理事長就任と同時に、私は学校の理念も名前も、そしてロゴも変えようと思いましたが。当時から私は丸坊主姿でマスコミにもときおり露出していたので、そんな私にせつかく学校を任せられたのだから、良い伝統は残しつつ、改革できることは変えていこうと決心しました。名称変更はその決意の表われです。

具体的にはまず変えたのは教育目的です。従来は免許取得が学校の最大の目的でした。しかし私はその文言を対外的には一切使わないようにしました。もちろん免許取得は大事なことです。それ以上に大事なことが人生にはあるんです。本校学生の場合はそれはヘア分野の知識や技術を身に付けることにより、自分らしく生きること、自分らしさを表現すること、クリエイティブな生き方を身に付けることなんです。極端に言えば、サロン勤務だけが美容師の職場ではない。私のように資格を生かして大学で講義を持つのも良いし、ファッション・フォトグラファーに挑戦するのも良い。就職先はサロンばかりじゃないんですね。そうした自由な発想や自分らしさを追求することを学校の理念としました。



「学生と教職員は、立場や経験値が違っただけで、対等な関係というのが本校のスタンス。だから仲が良い」と理事長は語る

——卒業後も、理事長と交流を持つ元学生はたくさんいるのですか。

半田——大勢いますよ。私は週に2日は終日、教壇に立っているのですが、全員の学生と触れ合いますし、名前も把握しています。しかも校長・理事長とは言っても、学生とはフレンドリーに接するのが私の、というよりも学校のモットーなので、現役、卒業生、そして教職員にかかわらず、全員仲が良いんです。他校からすれば、ある意味、異例なほどではないでしょうか。たとえば、在校生や卒業生は今でも私を下の名前で呼びますし、卒業してからも同期会や誕生日会を本校で行なうこともあります。またそんな集まりの待ち合わせ場所が本校だったり。中には休日に自分の

ぞれが理解しているということですね。では次の質問です。ヘアルトならではの制度や施設、イベントなどはありますか。

半田——学園祭が特徴的ではありませんね。テーマも運営も当日の進行もすべて学生に任せているんです。小規模校だから可能な面はあると思いますが、自由な校風ならではの自主性がある原動力になっていることは間違いありません。だから毎年、本校らしい素晴らしい学園祭に仕上がっているのだと自負しています。他校の中には、大規模ゆえすべて学側が仕切って、会場もモデルもまるでプロのショーかと見まがうような学園祭もあるようですが、本校に入学してくる学生は手作りの学園祭を好んでいるようです。

——学生の顔が見えるという意味では、ヘアルトのほうが学園祭らしい気がしますね。ほかにはありますか。

3年半の短期間で 美容資格を取得

半田——制度として特徴的なのは、「ダブルライセンス」という制度ですね。これは、理容科と美容科を併設している本校の特徴を生

トレーニングをしに来たり、あるいはわざわざ在校生の指導に来てくれる卒業生もいます。

——なんだか、家庭的な学校ですね。フレンドリーと言うよりも、アットホーム的印象です。ただ「親しき仲にも礼儀あり」という諺があるように、節度というか一線は必要だと思えます。それがないと、たとえば授業中、私語が絶えないなど問題も出て来る気がします。

半田——まずアットホームに関して言えば、これは創立当時から本校の伝統ですね。祖父、そして父の時代からそうでした。そのスタイルが今に受け継がれているのだと思います。また「一線」に関しては当然、必要です。先ほど自由を強調しましたが、それは何も「なんでもあり」と教えているわけではありません。自由は幸せな人生に必要なだけ、当然、義務もある。国民は納税の、勤め人は勤務時間厳守の、学生なら授業態度のルールがあるわけです。各々勝手なことをやるのが自由ではないと繰り返し指導しているのが、学生たちもそれを理解しています。もちろんそれは我々教職員にとっても同じです。そもそも学生と教職員は、立場や経験値が違

かした制度です。昼間部の理容科に在籍しながら、通信の美容科（一般コース）にも籍を置ける制度です。メリットは、3年半という短い期間で理容美容両方の資格を取れることです。またリーズナブルな学費で、入学から卒業までサポートを受けることができます。正式に導入したのは平成25年度からです。

もともとサロンに従事することなく資格を取りたいという社会人向けに通信課程美容科一般コースを設けたのですが、その制度を利用して理容師免許も取得できるメリットを導入することになったんです。

——たしかに、最近では40〜50代の美容師の方が理容師免許を取って、それを仕事に生かしたいという方が増えているそうですね。そうした社会状況にも対応しているわけですね。では最後の質問です。私見でかまわないので、半田理事長が考えるこれからの美容師像、とくに女性美容師像とはどんなものか教えてください。

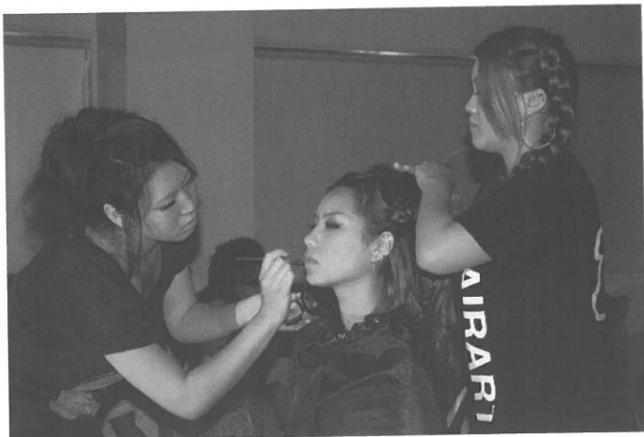
理想の美容師は 辞めない美容師

半田——私にとっての理想は、まずは辞めない

うだけで、人としての目線は同じ。優劣はもちろん上下関係ありません。対等な関係というのが本校のスタンス。だから仲が良いのだと思います。

すべて学生に任せる 学園祭だからこそ

——なるほど、対等だけど立場の違いをそれ



学園祭のひとつ。テーマも運営も当日の進行もすべて学生に委ねられ行なわれる

いことですね。とくに女性にとっては素晴らしい職業なので、いくつにもなっても体力が続く限り、現役でいてほしいと思います。もちろんその間、結婚や出産、それに家事育児とハードルはあると思いますが、それでも途中休んでも良いので、現場に復帰してほしいんです。また、これからはそのチャンスは以前よりは増えてくると思います。逆に絶対にやってほしくないのは、仕事がうまくいかなことからいって、「永久就職」の道に逃げたこと。今の職場や仕事から離れたくないで、とりあえず結婚してしまおう。そういう考えだけは持たないでほしいんです。それは資格や生き方さえも台無しにしてしまうからです。自分なりのやり方とペースで良いので、資格を長く生かしてほしい。それが私にとっての理想の美容師像ですね。

——わかりました。続けてさえいければ理想に近づく、ということですね。今日はお忙しい中、ありがとうございます。

半田——こちらこそ、ありがとうございます。